

令和元年度千葉市下水道事業会計決算の概要
千葉市下水道事業経営戦略財政収支の見通し



令和2年8月28日（金）

令和2年度（2020年度）第1回千葉市下水道事業経営委員会

令和元年度決算



1 令和元年度決算の概要

当年度純利益 11.4億円

行政区域内人口 973,121人(前年度比+2,666人)

処理区域内人口 947,203人(前年度比+2,775人)

普及率 97.34%(前年度比+0.02ポイント)

水洗化人口 943,120人(前年度比+3,144人)

接続率 99.57%(前年度比+0.04ポイント)

総処理水量 121,782,516 m^3 (前年度比+1.23%)

有収水量 96,015,912 m^3 (前年度比▲0.05%)

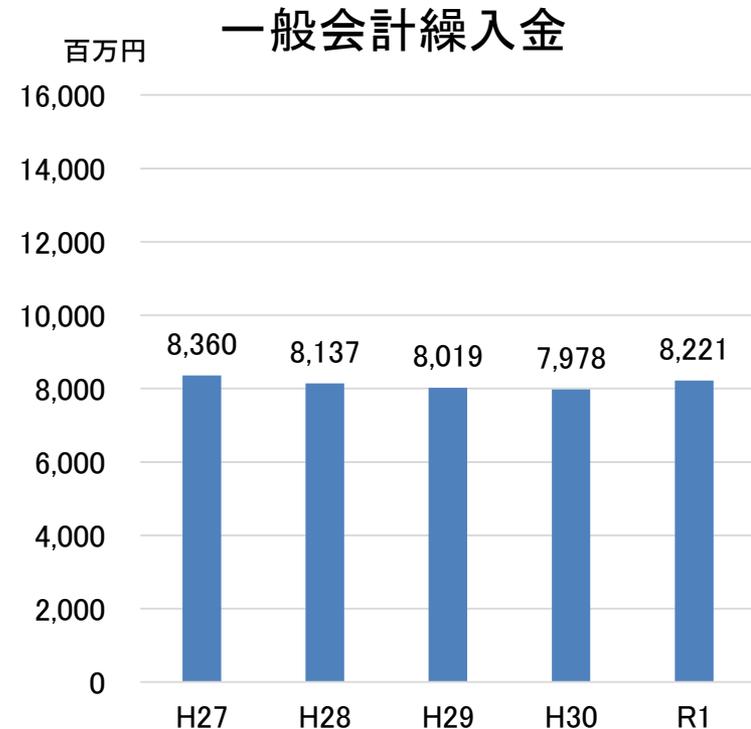
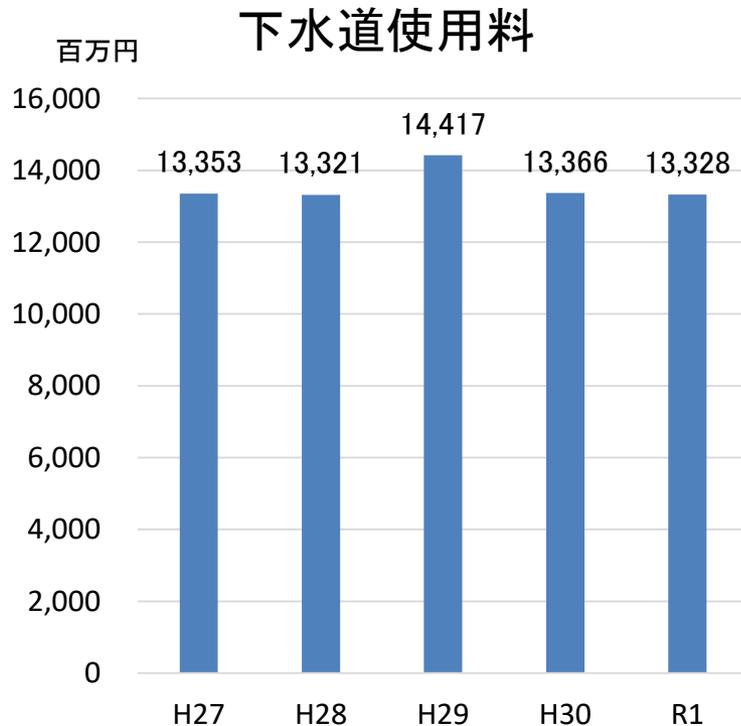


2 収益的收入

金額は税抜き

下水道使用料 13,328,032千円(前年度比▲0.28%)

一般会計繰入金 8,220,172千円(前年度比+3.03%)



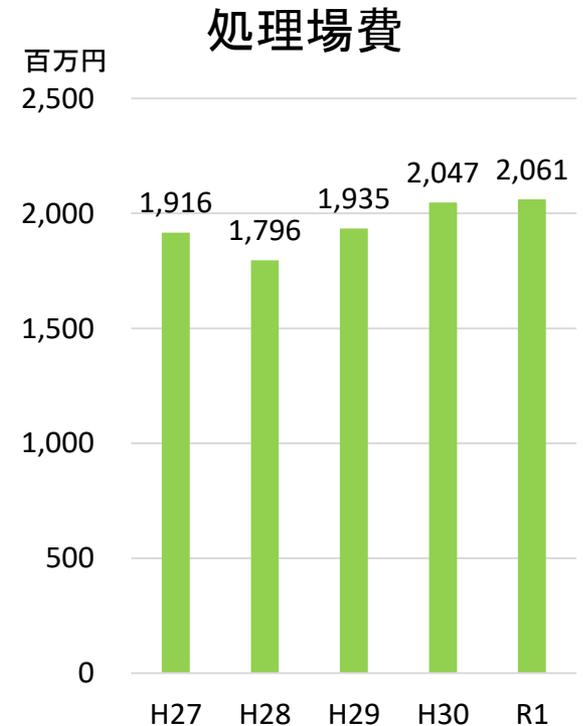
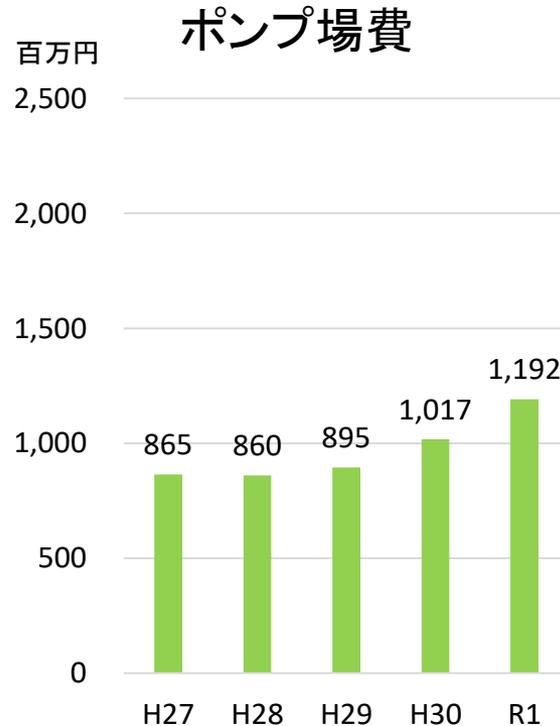
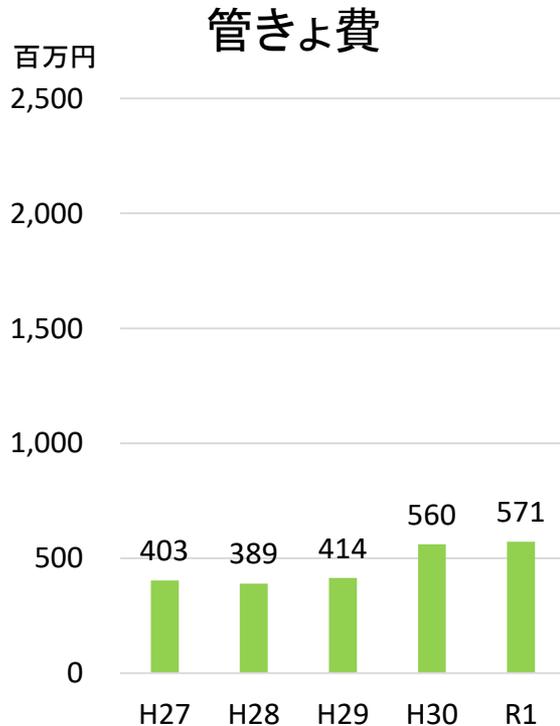


3 収益的支出

金額は税抜き

維持管理費（管きよ・ポンプ場・処理場費）

3,813,827千円（前年度比＋5.27％）

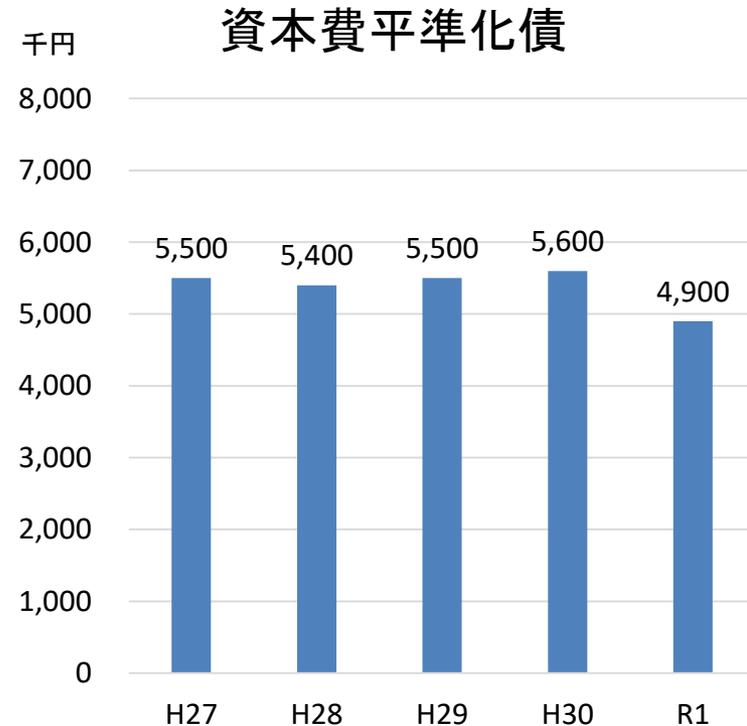
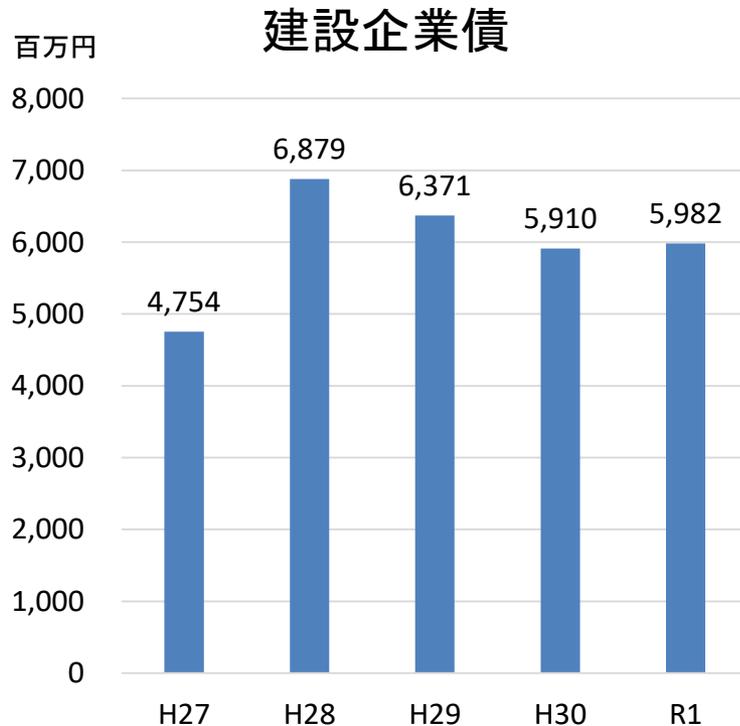




4 資本的收入

建設企業債、資本費平準化債の発行

10,881,600千円(前年度比▲5.46%)



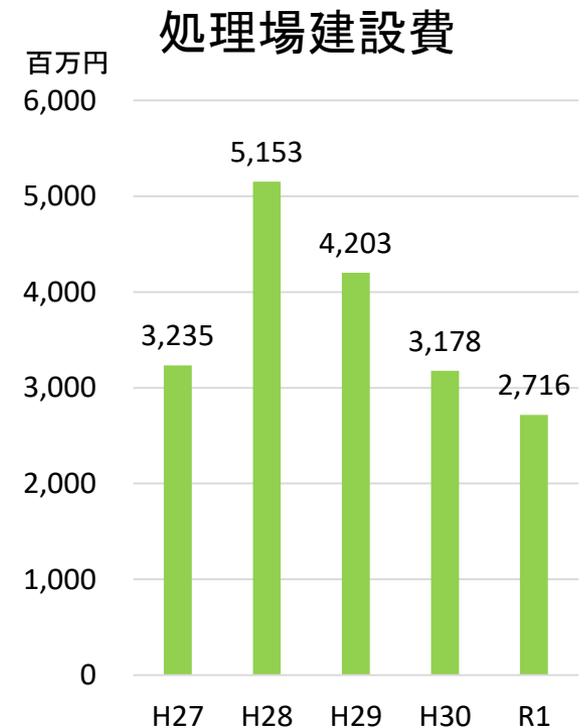
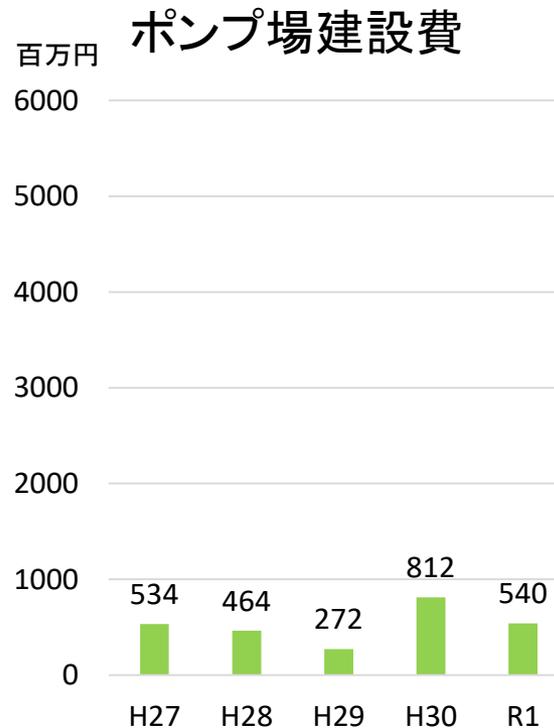
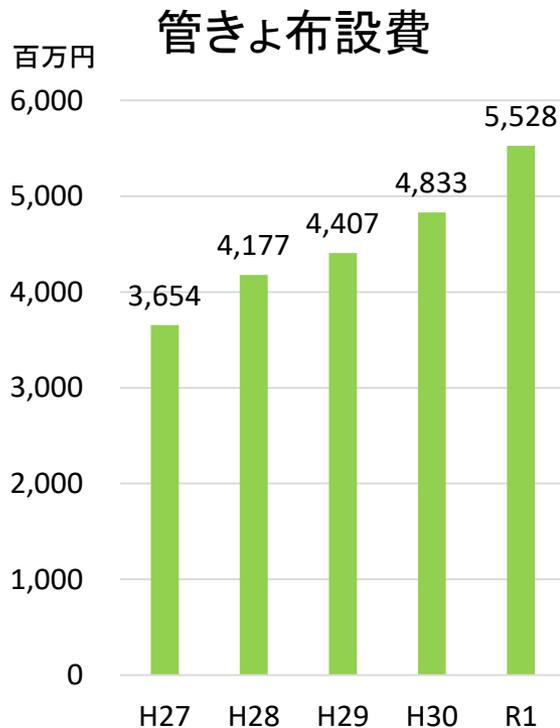


5 資本的支出

金額は税込み

建設事業費（管きょ・ポンプ場・処理場建設費）

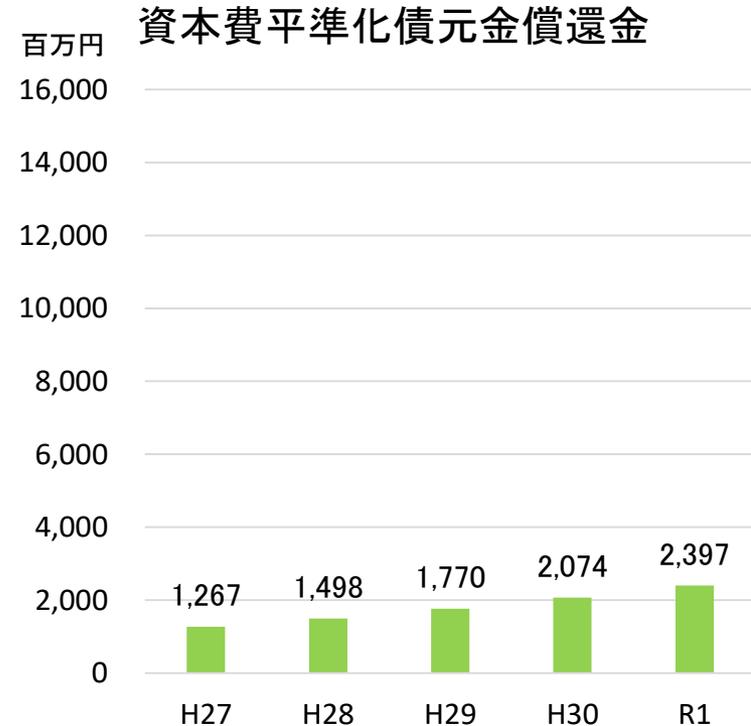
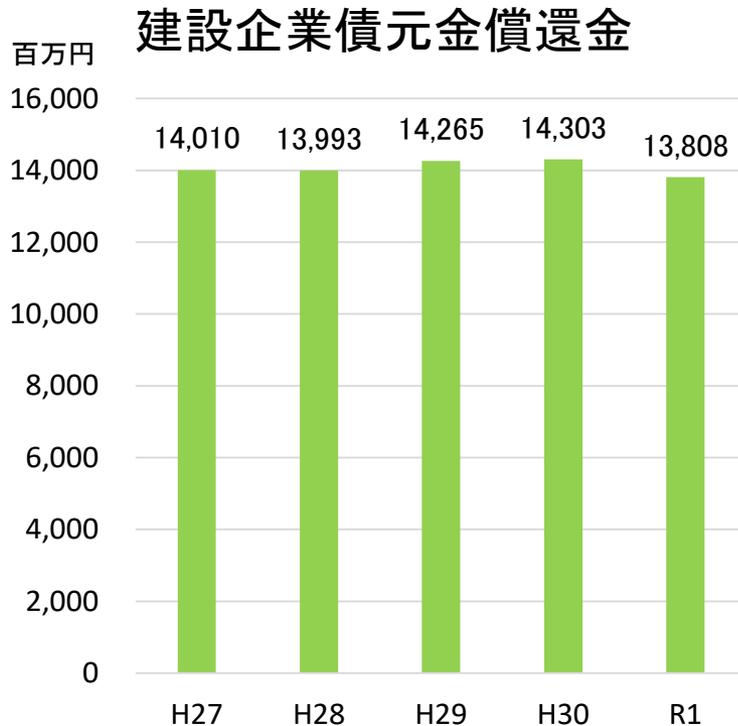
8,783,742千円（前年度比▲0.44%）





5 資本的支出

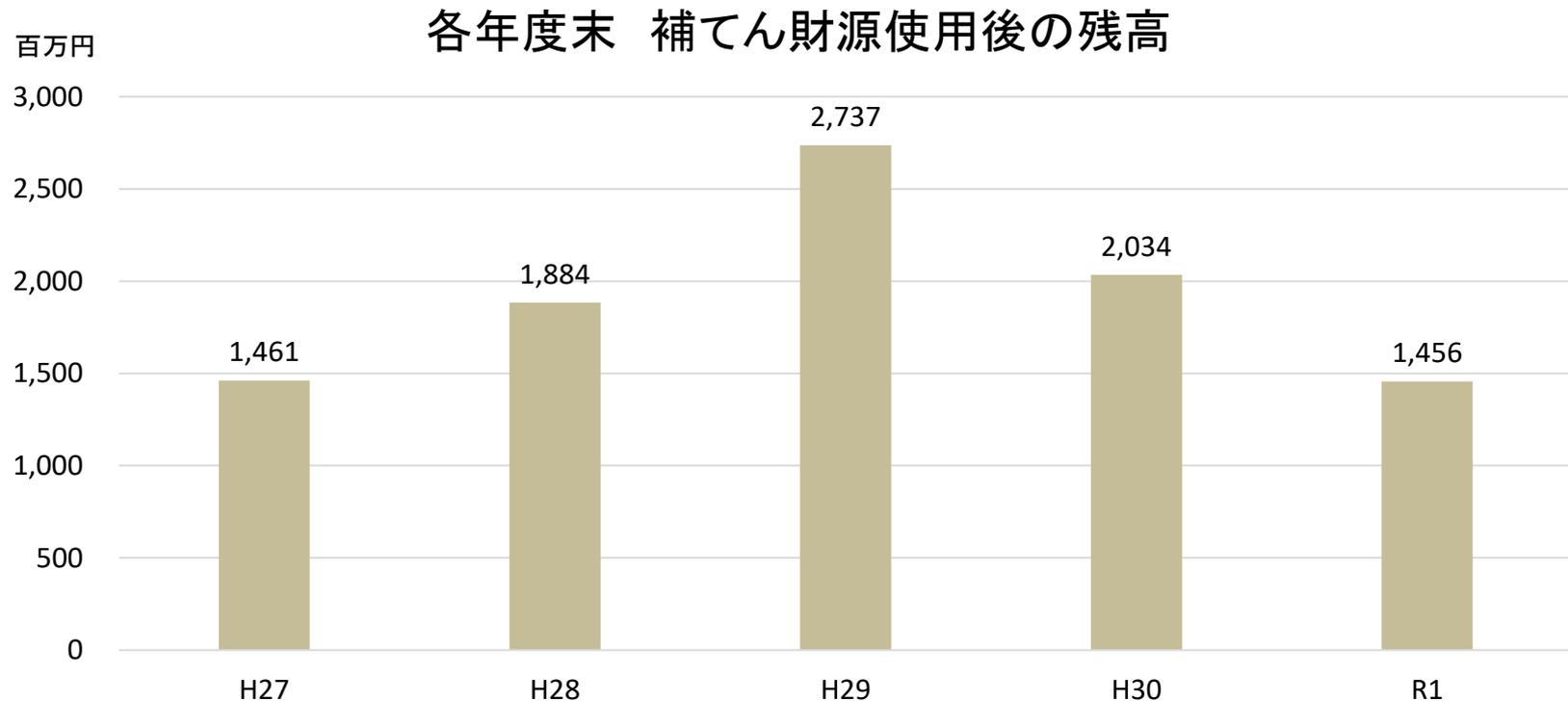
企業債償還金 16,205,133千円(前年度比▲1.05%)





6 補てん財源(内部留保)

資本的収入額が資本的支出額に不足する額11,361百万円は、損益勘定留保資金等で補てん

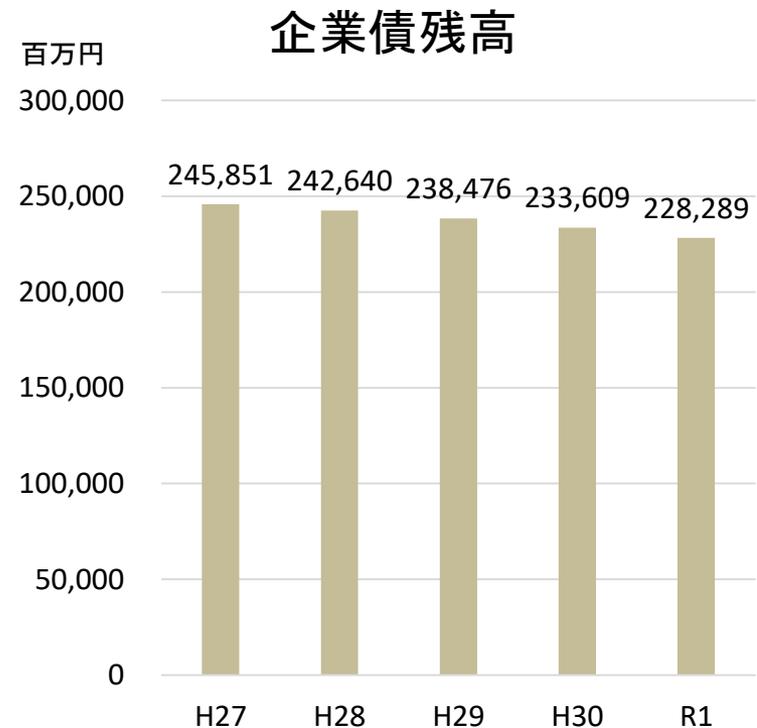
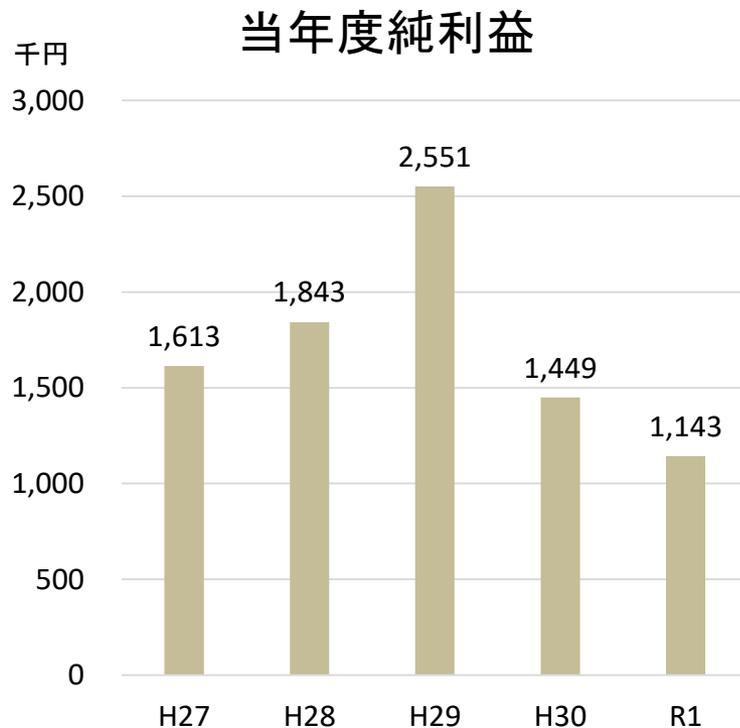




7 財務状況

当年度純利益 1,142,653千円(前年度比▲21.2%)

企業債残高 2,282億8,908万円(前年度比▲2.28%)



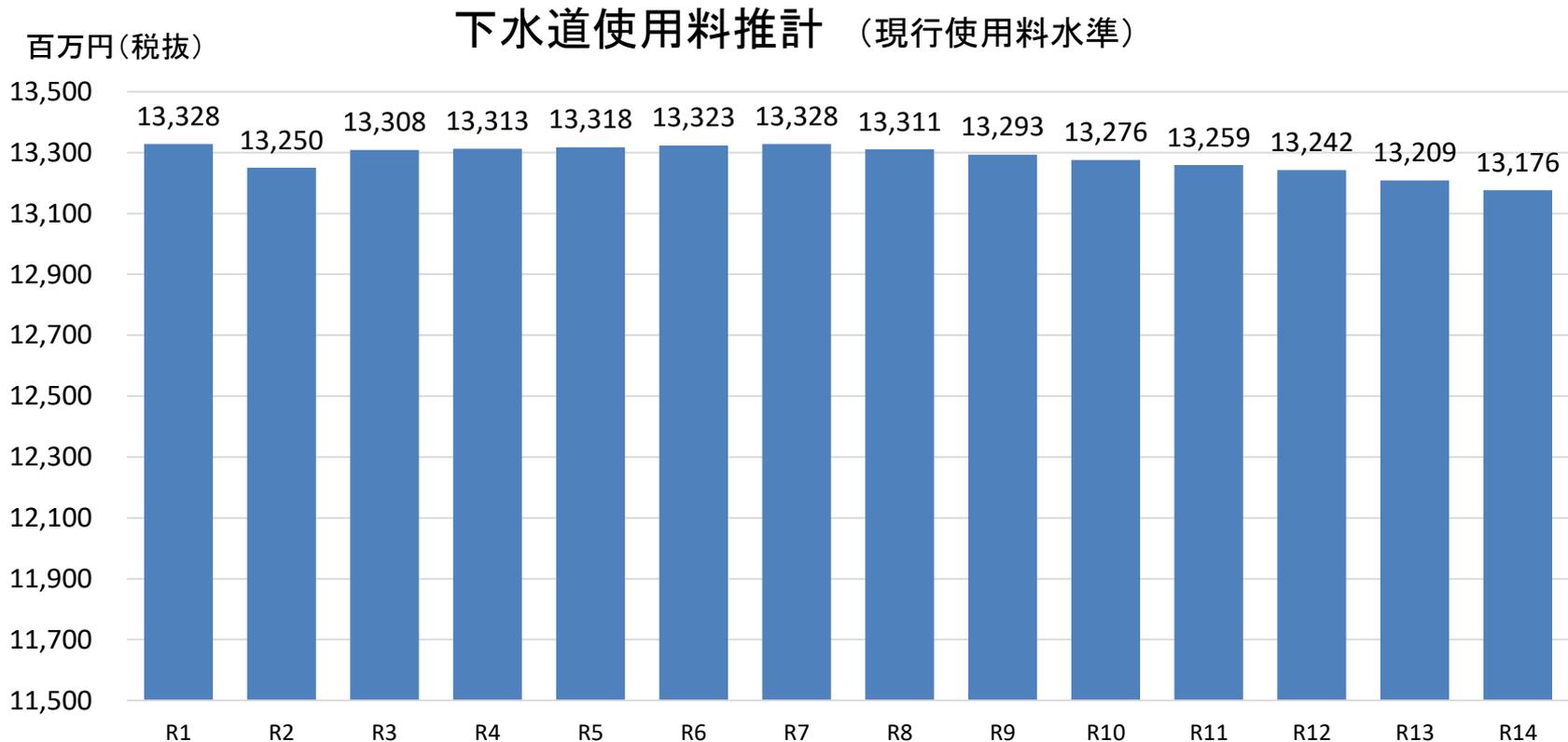
今後の収支見通し

收益的收支



1 下水道使用料

令和元年度第2回経営委員会（令和元年12月）で提示した下水道使用料について、令和元年度決算（見込）を踏まえ、再調整を行ったが、前回掲示したものとほぼ同様に、しばらく横ばいで推移し、令和7年度以降、徐々に減少していく見通しである。

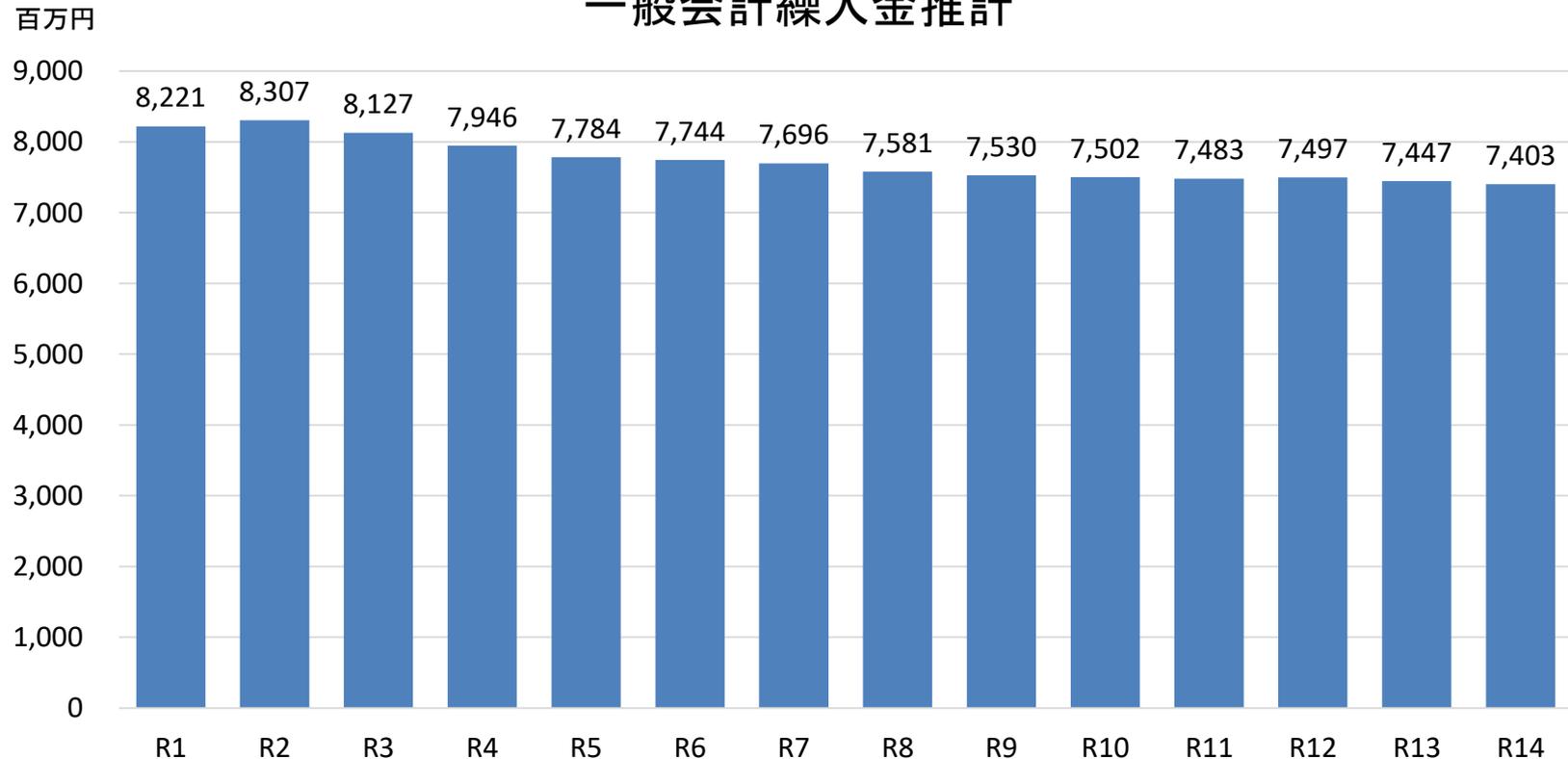




2 一般会計繰入金(収益的支出に係る公費負担)

雨水処理負担金は増加が見込まれているが、今後、支払利息に対する繰り入れが減少していくため、総額では、徐々に減少していく見込みである。

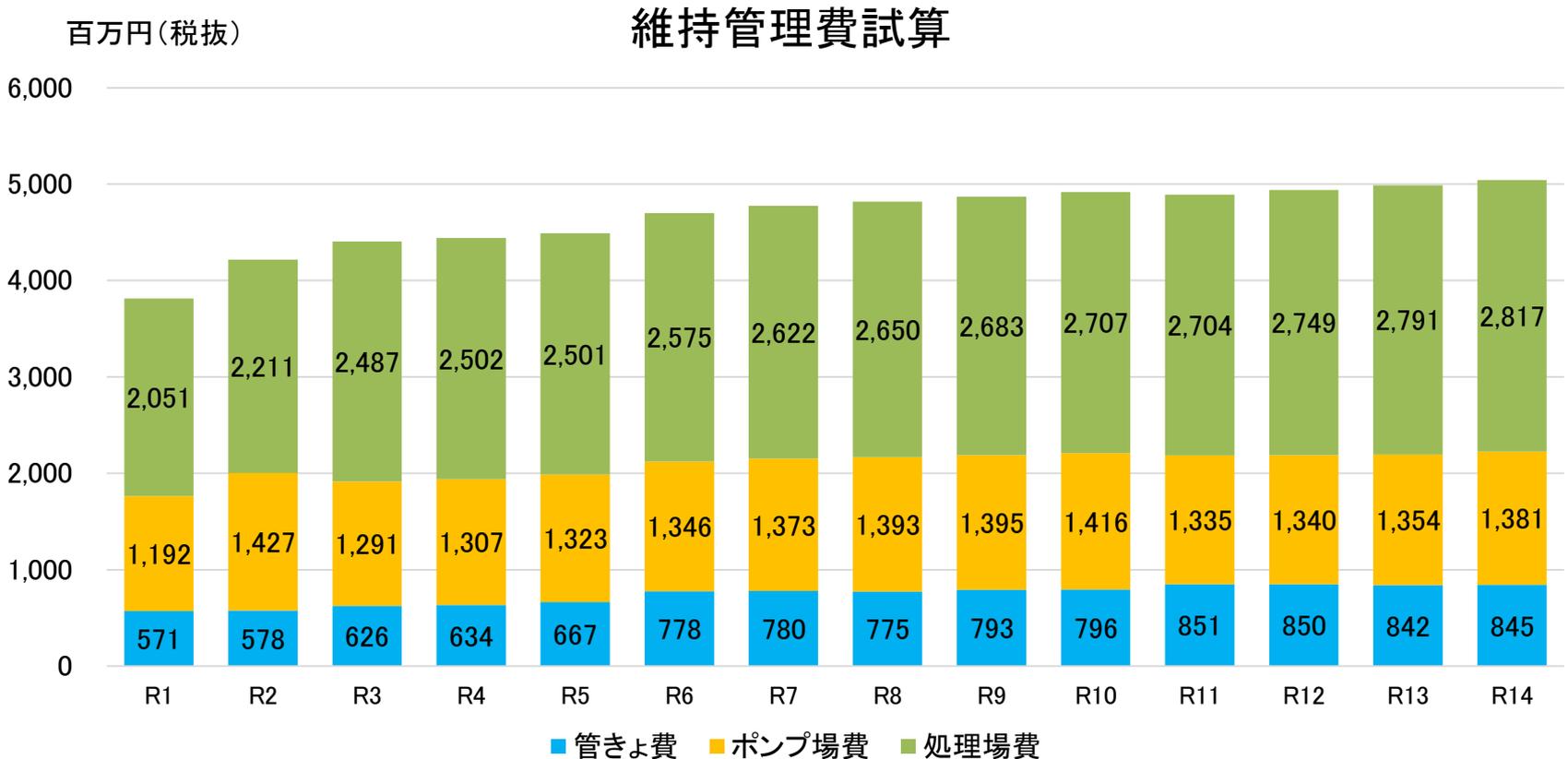
一般会計繰入金推計





3 維持管理費（管きよ・ポンプ場・処理場費）

維持管理費（管きよ費・ポンプ場費・処理場費）は老朽化に伴う調査・点検費用や修繕費の増加、高度処理施設の稼働などにより、令和14年度には約50億円まで増加していく見込みである。

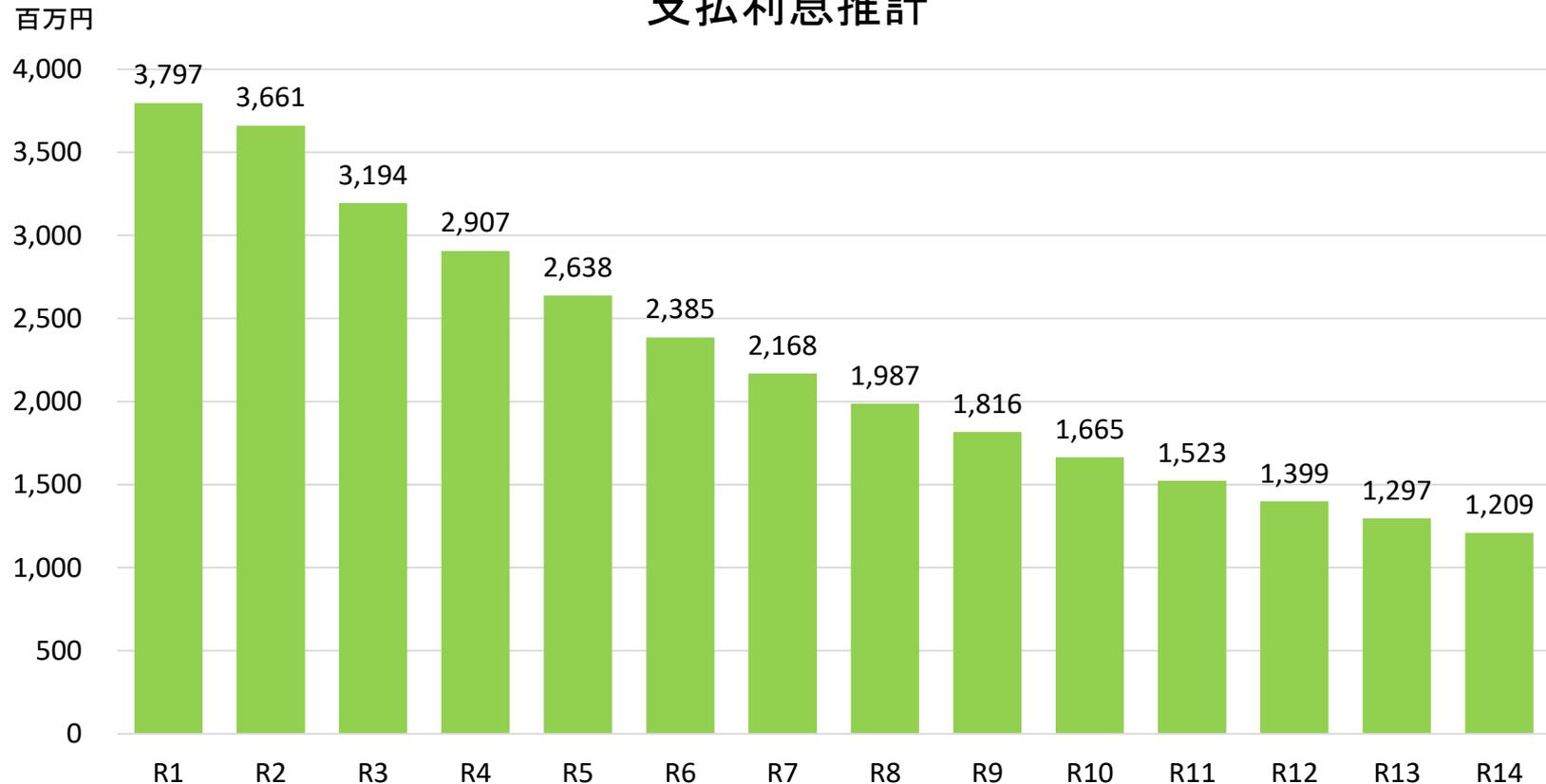




4 支払利息

過去に発行した企業債のうち、現在の金利と比較して借入利率が高い企業債の償還が終了していくため、支払利息は年々減少していく見込みである。

支払利息推計



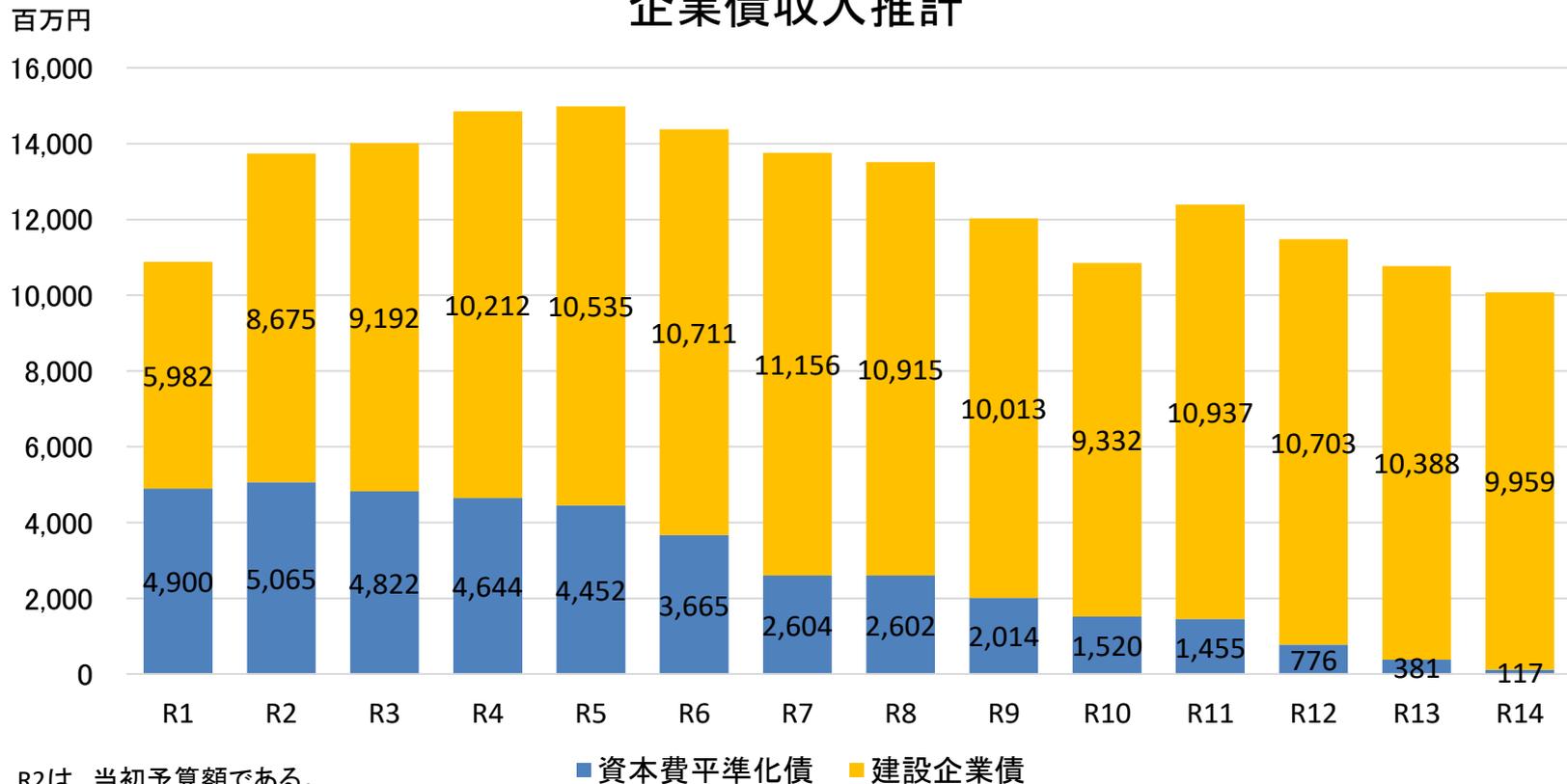
資本的收支



1 企業債収入

企業債残高を減少させていくため、建設企業債の発行上限を110億円程度に設定。資本費平準化債の発行は、計画期間が満了となる令和14年度で最終となる見込み。

企業債収入推計





1 企業債収入

本来、建設企業債の償還は、減価償却費等で内部留保された資金をもって償還するが、建設企業債の償還期間と減価償却期間が異なることから、償還額が減価償却費を超える額について、資本費平準化債を発行して償還している。

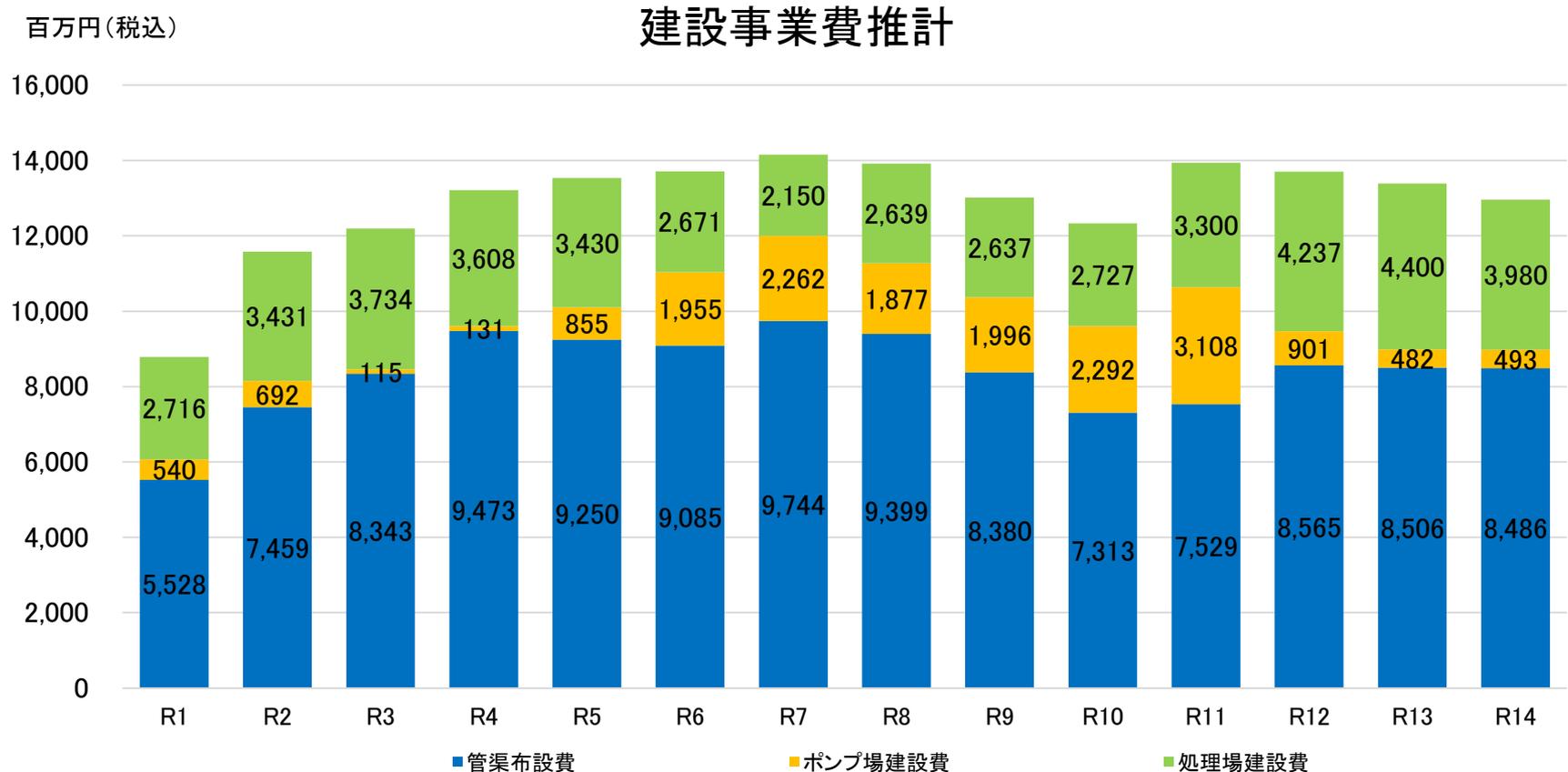
資本費平準化債のしくみ





2 建設事業費（管きょ・ポンプ場・処理場建設費）

更新時期が到来する資産が増加していくなか、建設事業費（管渠布設費・ポンプ場建設費・処理場建設費）は約120～140億円で平準化を図っている。（R2当初予算）

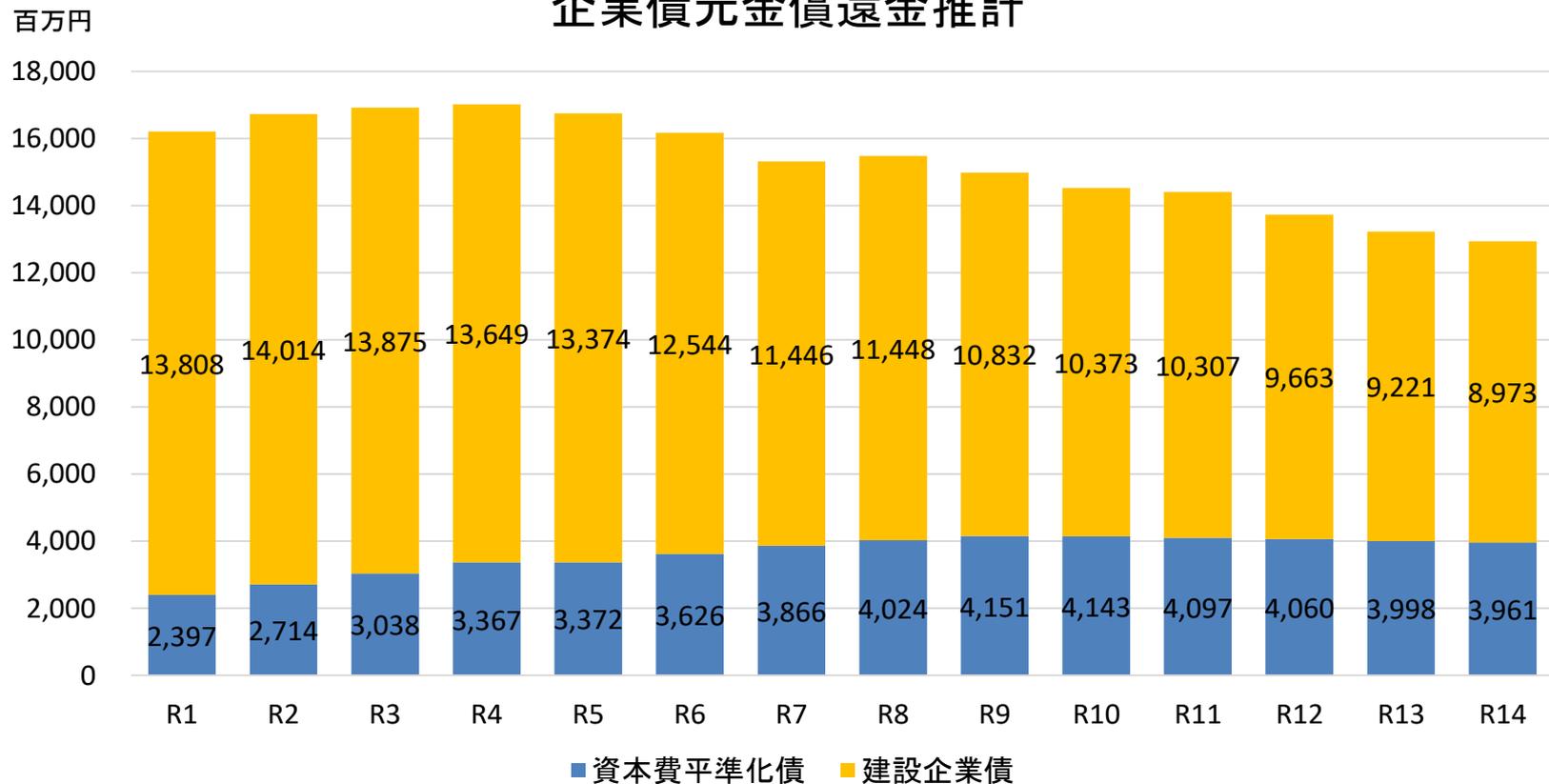




3 企業債償還金

令和4年度に元金償還のピークを迎え、徐々に減少していくが、資本費平準化債の元金償還は年々増加しており、令和9年度にピークを迎える見込み。

企業債元金償還金推計



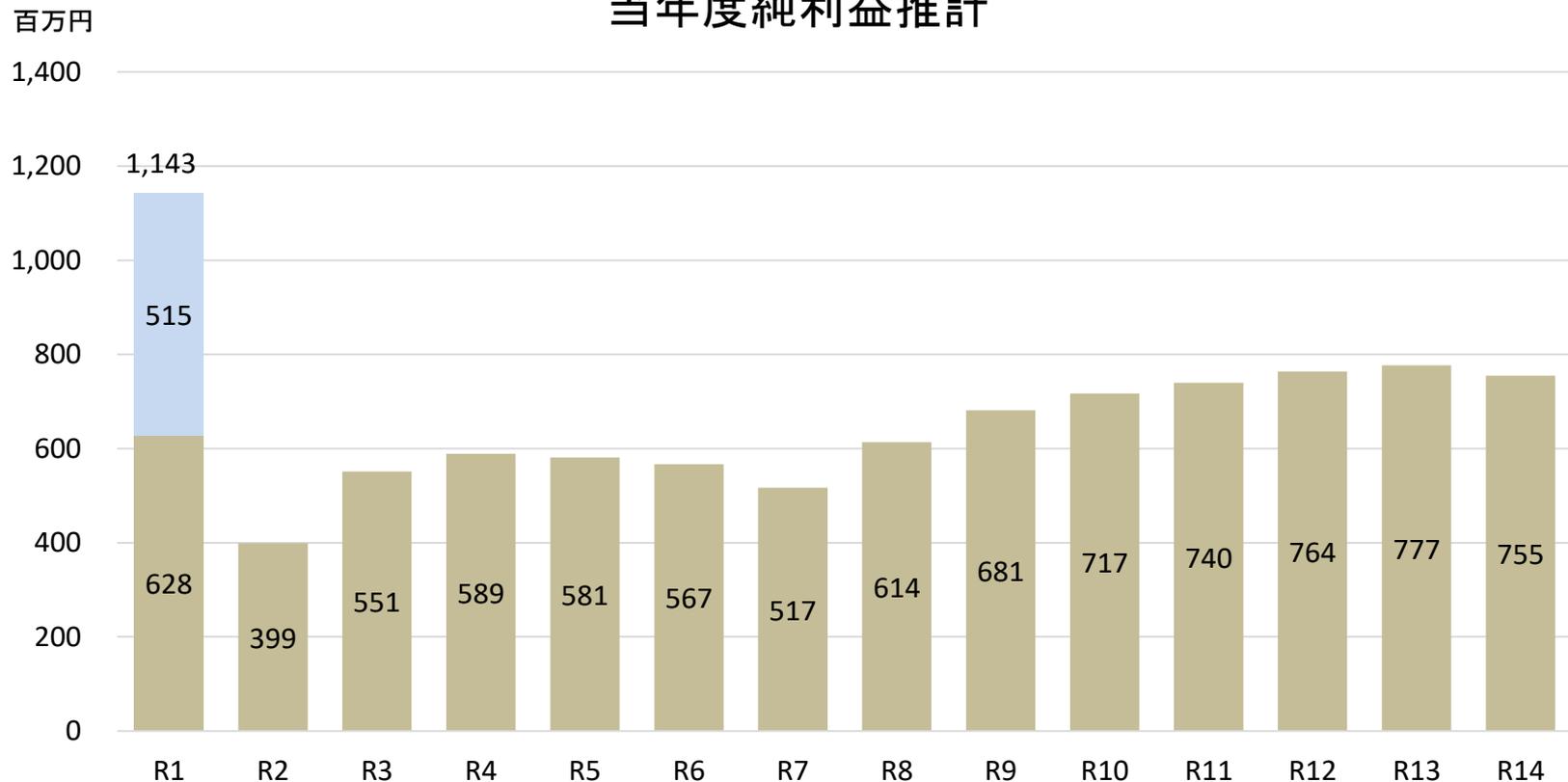
経営状況



1 損益収支

今後急速に増加する老朽化施設に対応するため、維持管理費が年々増加していく見込みだが、支払利息は年々減少していくため、毎年度、当年度純利益を計上できる見込み。

当年度純利益推計





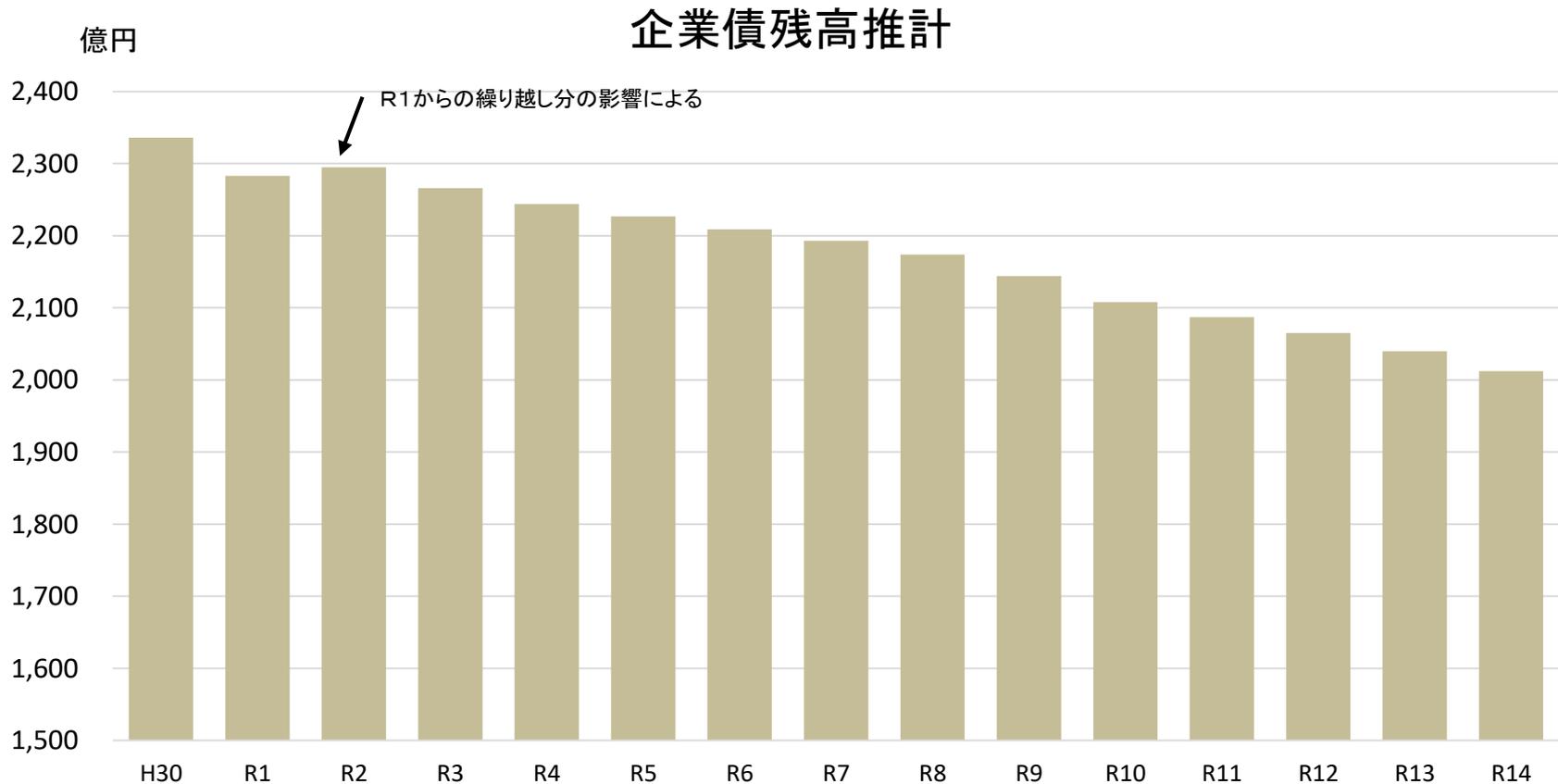
2 一般会計繰入金について

老朽化施設に対する維持管理費や改築更新費用が増加していく中で、優先順位を付けながら、費用の平準化を図り、収支均衡となるように努めているが、過去に発行した資本費平準化債の償還が重荷となっていることから、資本的支出に対する一般会計からの公費負担について、財政当局と協議を行っている。



3 企業債残高

現在予定している投資・財政計画では、企業債残高は引き続き減少していく見込みである。



懸案事項

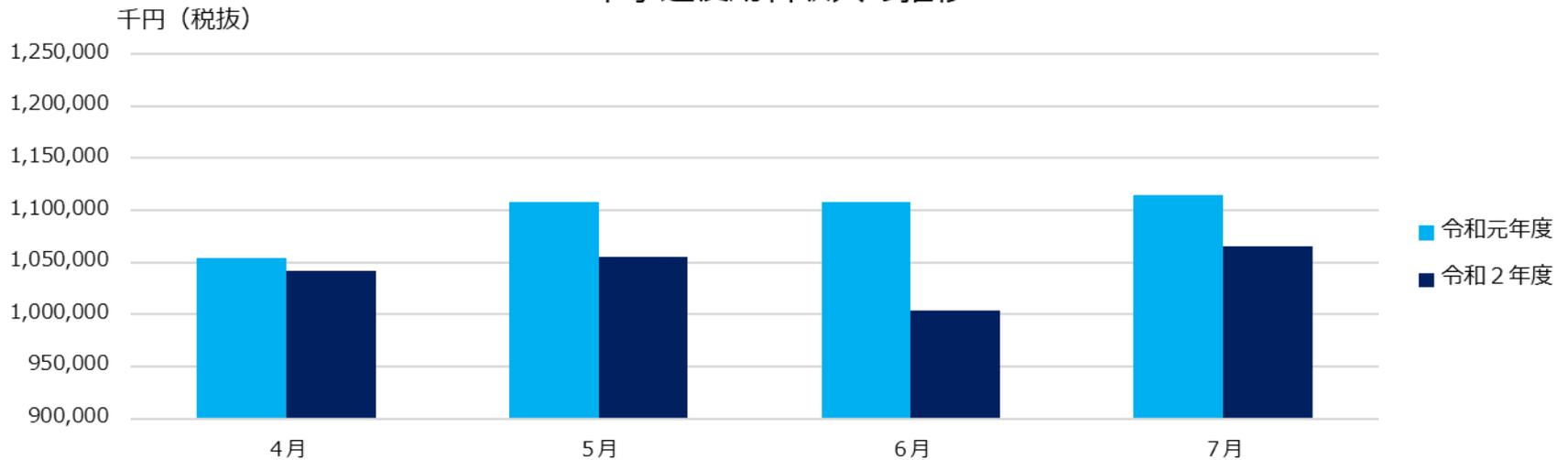


新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症による影響 令和2年4月～7月の動向

- 調定件数及び有収水量は、概ね前年同月を上回っている。
- 下水道使用料収入は、高水量区分の使用水量が減少していることから、使用料全体では、前年同月で減収となっている。

下水道使用料収入の推移





今後の予定

- | | |
|-------------|---|
| 令和2年 1 1月上旬 | 市調整会議・政策会議 |
| 1 2月以降 | 令和2年度第2回千葉市下水道事業経営委員会
原案審議
パブリックコメント手続
令和2年度第3回千葉市下水道事業経営委員会
パブリックコメント手続の意見に対する回答 |
| 令和3年 3月下旬 | 次期計画公表 |